

ユーザニーズへの挑戦

宇宙通信株式会社

竹之下 早苗

もう10年以上も前の話になりますが、当時私は大学卒業を1年後に控え、いざ就職活動を始めるという時になって、さて自分は何をやりたいのだろう...と途方に暮れていました。大学では「これからはコンピュータの時代だ」と漠然と考え、情報科学を専攻してみたものの、就職活動の直前になって、自分にとってコンピュータは、便利な道具ではあっても、情熱を持って一生続けられる仕事にはなり得ないのではないかと...と思い始めていた頃でした。

長く続けられる仕事を見つけたい、できれば何かを創り出す仕事をしたい、そして、これまでの情報科学の知識が少しでも活かされれば...そんな形にならない希望だけをかかえ、就職活動を始め、いくつかの会社の研究・開発部署を見学させていただきました。人工知能やロボットアームの開発現場を実際に見せて頂くことで、なんだか面白そうだなと思えるキーワード『宇宙』にたどり着いたのです。



SCC 本社受付ロビーにて(2001 12)

そういえば宇宙飛行士にあこがれたこともあった、もともとSF小説を読むのは大好きだし...と自分の興味を再認識しました。そしてさらに、ある一部分だけの研究や開発に携わるより、システム全体を把握できる仕事がしたいという気持ちを強く持つようになりました。

「衛星通信にかかわる仕事がしたい」というはっきりした目的をもって入社する人の多い会社の中で、こんな動機で就職した人間も珍しいのではないかと思います。そしてお恥ずかしいことに、入社するまで自分が通信事業に従事するという自覚が全くありませんでした。おかげで入社した当初は、衛星通信どころか無線の『いろは』も知らずに通信システムエンジニアを名乗り、日々の業務を通して勉強するという状態が続きました。周りの

方にはずいぶんご迷惑をおかけしたことと思い、今更ながらに反省しております。

ただ、今この原稿を書きながらもはっきり感じるのは、自分の直感を信じて、仕事の場として『衛星通信』を選んだことは決して間違っていなかったということです。人生において、時間的にも労力的にも大きな比率を占める仕事に、『夢』や『好奇心』を持っていない様では、長く続けることは難しいのではないかと思うからです。自分にとって希望通りの就職ができたことは、本当に幸運なことだったと言えるでしょう。

特に女性にとって、結婚・出産・育児という、とても高いハードルを跳び越えながら仕事を続けるのは、本当に大変なことです。私自身、現在3度目の出産を控えながらも、また仕事に復帰しようという意欲を持てるのは、仕事自体が好きで、いつまでも続けていきたいという気持ちがあるからだと思います。

この10年間の仕事を振り返り、一言で表現すると、ちょっと堅苦しい言葉になりますが、「ユーザーのニーズに応えられる衛星通信システムを構築し、安定した回線運用を図るための努力を続けてきた」ということではないかと思えます。これは半分理想でもあり、現実には、100%ユーザーに満足いただけるような仕事ができているとは思えません。でも、努力を続けることで少しでも理想に近づけたら、と考えながら仕事をしてきたつもりですし、これからもそうしていくのだからと思います。

衛星通信はよく言われるように、『特徴』のはっきりした通信手段です。最近ではブロードバンド、マルチキャストと脚光を浴びることもありますが、そんなメリットの反面、回線品質が天候に左右されやすいなど、デメリットがあるのも事実です。そんな衛星通信の特徴をユーザーに理解していただき、ユーザーのニーズを実現しつつ、衛星通信のメリットを最大限に生かしたシステムを設計することが理想となります。

一定の回線品質を確保しながらも、設備コストは押え、運用の手間もできるだけかけずに済むよう、システムや回線の設計を行う...様々な要素を考慮しつつ、システム検討を行う設計段階においては、小さな計算ミスが大きな回線品質の劣化を引き起こすことともなり、気が抜けません。

そして、実際に機器の設計・製造・工事をして頂くメーカーやユーザーの方々と協力し、地球局の無線局免

ウニモグ SNG 車の前で同僚達と（日比谷）



許を取得し、やっとネットワーク運用開始となります。また、運用開始前後を通じて、回線品質をできるだけ良好に保つための運用方法について考え、システム設計に反映し、運用マニュアルをまとめます。一方、社内では衛星運用部門と連携して、衛星通信回線の安定運用に努めます。

入社直前に打ち上げロケットの事故で新しい衛星を失い、さらに入社後半年ほどで運用中の衛星まで失う事態を経験しました。不本意にも、衛星通信事業者であるのに通信設備である衛星が無いという状態での営業を経験し、とてもつらい思いをしました。

社内はもちろんのこと、社外からも多くの応援や協力を頂いて逆境を乗り越えることで、私個人も組織としての会社も、大きく成長できたのだと思っています。また、通信事業者としての責任の重さや、衛星を含めた通信設備の安定運用の大切さを痛感することができました。

以上は仕事の厳しい一面ですが、一方で大きな楽しみもあります。

通信衛星そのものもそうですが、大規模なプロジェクトになるとネットワーク設計だけで数年を要するものもあります。当然ながら、運用開始時点で最新技術を実現できる設計を行うには、将来の市場動向まで予測することとなり、困難を極めます。そんな産みの苦しみを経てやっと運用に入り、ユーザーから「ありがとう。とっても便利になったよ」とか、「衛星の性能がいいから画質がいいんだね」なんてお褒めの言葉を頂くと、まるで自分のことを誉められたかのように嬉しくなります。そして、「よし、次もがんばろう」と大きな励みになります。



山口管制局にて（1992 春 LASCOM 運用開始の頃）

これまで担当させて頂いた大規模システムのひとつに、都道府県の防災行政ネットワークの一部である『地域衛星通信ネットワーク（通称 LASCOM）』があります。このネットワークでは、現在、4,000 局を超える地球局が稼動しており、町役場や消防署の屋上など、我々の生活に近い場所に地球局が設置されています。そのため、旅行や出張などで初めて訪れた土地でも、ふとアンテナを目にすることがあり、そんな時には、まるで知らない場所

でばったり友人に出会ったかのように、妙に嬉しく、心強く感じるがあります。

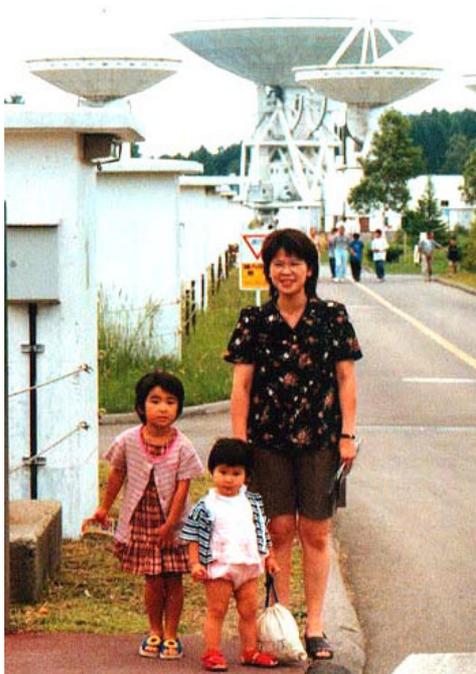
また、このネットワークには、システム設計・構築から運用、そして今着々と進められている次世代システム構築まで、入社以来ずっと関わることができ、非常に愛着を持って

います。自分の子供がもう少し大きくなったら、近所の消防署にあるアンテナを見せて、自分の仕事の話をしてやろう、と今から楽しみにしています。

そして、もうひとつ仕事で得られる大きな楽しみとして、ユーザーやメーカーの方など、たくさんの人と接し、お知り合いになれるということがあります。業務を進める上で、最近、特に電話や電子メールなどで用件の済むことが多いのですが、不思議なものでやはり人間同士、顔を見ながら話をするということの大切さを感じます。電話ではなかなか理解してもらえなかったことが、ちゃんとお会いして相手の理解を得られた時の満足感など、言葉にし難いものがあります。システム設計でも、通信技術としては最新のものを追い求めながら、人間本来の特性をよく考え、運用を第一に考えるシステム設計を大事にしたい...と実感する場面でもあります。

こんなふうに、日々の業務や日常生活の中で、衛星通信に関わる様々な喜怒哀楽を感じています。特に最近強く感じることは、衛星通信の使われ方に関するものです。

衛星通信には、無線であるため災害に強く、ケーブルを敷設しなくても、地球局さえ設置すればすぐに回線が開通できるというメリットがあります。それゆえに、テロや大災害、そして戦地からのTV中継などでクローズアップされることが多いのです。どうせ役に立つなら、ブロードバンド伝送で生活を楽しく便利にしたり、世界中のコミュニケーションに使われる、便利で手軽な通信手段として利用してもらいたいのに...と、心の痛む思いをすることも度々です。これも衛星通信という通信手段の持つ、皮肉な特徴といえるでしょう。



野辺山のアンテナ群の前で子供達と(2000 - 7)

話は変わりますが、幸い職場環境には恵まれ、これまで結婚しても出産しても仕事を続けることができました。元々、マイペースな性格でもあるせい、重い機器を運ぶといった力仕事を除けば、女性であるというハンディを感じた事もほとんどありません。でも、さすがに出産後は育児に大きな時間を取られ、当然ながら残業や出張もできる範囲のことしかできず、仕事も育児も中途半端ということも多々ありました。そんな毎日に、時にはイライラすることもありましたが、周りの方々のいろいろなアドバイスを聞くうちに、その時々、自分のできる範囲内で最善をつくすことが大事なのだ、と思えるようになりました。たとえ男性であっても、家族の事情や体調によっては、思い通りに仕事のできない場合もあるのですから。

最初にも書いた通り、就職活動の時に「長く続け

られる仕事を見つける」という大きな目標を立てました。『健康第一』と『ストレスをためない』をモットーに毎日の生活を乗り切ることで、就職当初の目標は徐々に達成されつつあります。

まだまだ人生は長いので、10年後に自分がどんな人生を送っているかは全く分かりません。でも、せっかく自分に合った仕事を見つける事ができたのですから、少しでも長く続け、今後の衛星通信の発展に積極的にかかわっていきたい、と考えている今日この頃です。